5. 古英語から中英語へ

要点

1. 古ノルド語とは？
2. 古英語から中英語にかけて何がどう変わったか？
3. 英語史上, なぜ古ノルド語が重要か？

現代英語の 5 特徴（復習）

1. (　　) Vocabulary #151, #152, #153
2. (　　) Simplicity
3. Natural (　　)
4. (　　) Gap
5. (　　) Expressions

古英語の 5 特徴（復習）

1. (　　) Vocabulary
2. (　　) Inflection
3. (　　) Gender
4. Spelling-Pronunciation (　　)
5. (　　) and (　　) Words

征服の歴史 (#37)

1. (　　) : 6000 BC –
2. (　　) : 55, 54 BC and AD 43
3. (　　): 449
4. (　　): mid-C8 – C11
5. (　　): 1066 (　　) Conquest

(　　)の時代

1. (　)世紀後半〜(　　)世紀前半の 250 年ほど
2. (　　)年：King (　　)の活躍
3. (　　)年：ヴァイキングの首領，イングランド王に
4. (　　)年：三代のヴァイキング王朝の終焉，アングロサクソン王朝の復活

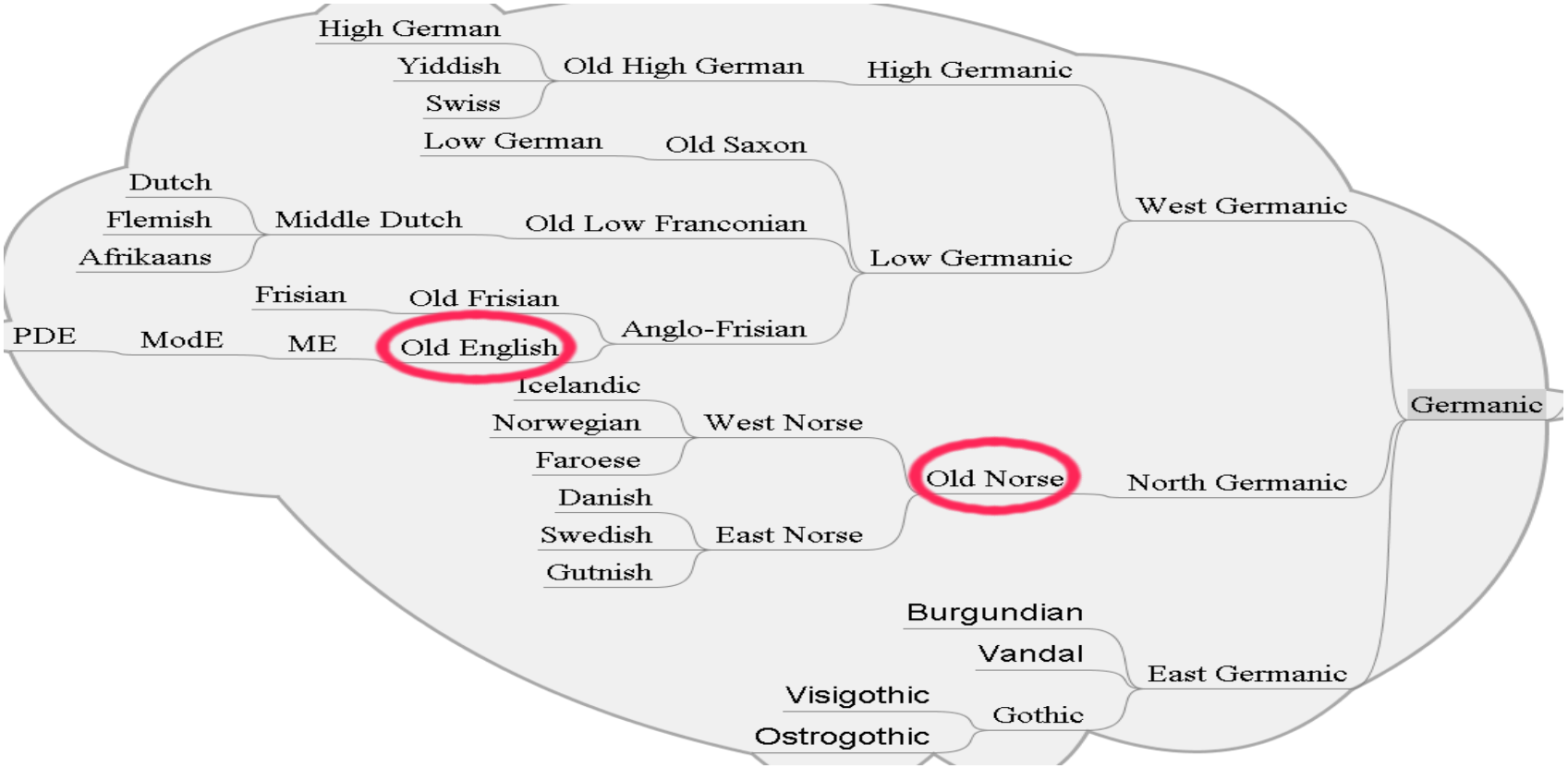
5. (　　) 年：(　　) 人の征服
6. この間に，多くのヴァイキングがイングランドの (　　) に定住
7. 古英語話者と古ノルド語話者が融合し，言語も融合した

関連用語

1. (　　)：ヨーロッパを舞台に海賊・侵入・定住を繰り返した北欧出身の人々
2. (　　) 人：現代の北欧諸国の国民（フィンランドは非ゲルマン民族）
3. (　　) 人：スカンディナヴィア地方出身の人々

4. (　　) 人：北ゲルマン語派の言語を話す人々.
5. 古ノルド語：(　　). 北ゲルマン語派の諸言語の（実在する）祖語. 紀元 1000 年前後には, (　　) 差はいまだ僅少.

OE と ON の関係


High German
Yiddish
Swiss
Old High German
High Germanic
Low German
Old Saxon
Dutch
Flemish
Afrikaans
Middle Dutch
Old Low Franconian
West Germanic
Low Germanic
Frisian
Old Frisian
Anglo-Frisian
PDE
ModE
ME
Old English
Icelandic
Norwegian
Faroese
West Norse
Germanic
Old Norse
North Germanic
Danish
Swedish
Gutnish
East Norse
Burgundian
Vandal
East Germanic
Visigothic
Ostrogothic
Gothic

ON からの借用語

1. (　　) 借用語に比べ数は多くなく,
2. 現代標準英語に残るのは (　　) 語ほどだが,
3. (　　) 語や (　　) 語などの高頻度語が多く,

4. 本来の英語と区別がつかないほど深く浸透.
5. (　　)にも多く,
6. イングランドの(　　)の方言を含めれば倍増する.(##2625,2693)

英語であって英語でない文

(　　) they are (　　) weak (　　), she gives them (　　). （彼らは二人とも弱い奴らだが，彼女は彼らに贈り物をあげる.）

ON なしでは・・・ #340

An Englishman cannot (　　) or be (　) or (　　) without Scandinavian words; they are to the language what (　　) and (　　) are to the daily fare. (Jespersen)

イングランドの地名の ON

1. ON 由来の地名が (　　) 以上
2. 東部・北部の “(　　)” に集中
3. -*by* 「(　)」: *Derby*, *Rugby*, *Whitby*
4. -*thorpe* 「(　)」: *Bishopsthorp*
5. -*thwaite* 「(　　)」: *Applethwaite*, *Braithwaite*, *Storthwaite*
6. -*toft* 「(　　)」: *Eastoft*, *Langtoft*

ON 地名と人名の分布

1. 地名の分布 (#818)
2. 人名 (　　) の出身地の分布 (#1937)

ON **からの** (　　) cf. #170

1. もともと英語としてあったが，対応するONから意味を借りた例
2. *bloom*: OE「(　　)」，ON「花」
3. *bread*: OE「(　　)」，ON「パン」
4. *dream*: OE「(　　)」，ON「夢」
5. *gift*: OE「(　　)」，ON「贈り物」

ON の (　　) への影響

1. (　　)：*give up*, *stand by* などの動詞と小辞を組み合わせた表現
2. (　　) 語では一般的ではないが，(　　) 語ではよく発達していた
3. 言語接触により英語でも使用が促進されたか？

ON の影響の英語史的意義

1. 英語と ON の話者はおそらく意思疎通が可能だった.
2. 民族的，文化的に近く，「兄弟」のように喧嘩し「兄弟」のように仲直りした.
3. 両言語が交わったとき，(　　) にも著しく重要な影響を与えた・・・.

文法の大変化

1. 古英語から中英語にかけて（　　）と（　　）が衰退し，
2. 形態論（　　）が再編成され，
3. 現代英語の文法の基礎がつくられた．

文法の大変化の When and Where

(　) 世紀〜(　) 世紀を中心とする古英語から中英語への過渡期に

1. (　　) 方言：早く急速に
2. (　　) 方言：遅く緩慢に

cf. #130

古英語では屈折ゆえに（　　）が自由

1. *se* hlāford lufaþ *þā* hlæfdig*an*
2. *þā* hlæfdig*an* lufaþ *se* hlāford
3. *se* hlāford *þā* hlæfdig*an* lufaþ

古英語では屈折ゆえに（　　）が必須でない

1. God*e* ælmihteg*um* sie þonc
2. se wer is wisdom*es* full

古英語では（　　）が健在

1. 性の付与は原則としてランダムだが，一部，語尾による見分け方あり
2. 決定詞や代名詞の呼応あり（#154, #155）

古英語は（　　）語尾が命の言語

古英語は，語と語の関係を示す（　）や名詞の所属を示す（　）などの多様な文法情報を（　　）語尾に詰め込む（　　）的な（　　）言語だった．そのため，文法関係を示すのに（　　）や（　　）は副次的な役割しか果たさなかった．

屈折語尾の（　　）

1. *se*, *þā*, *þone* などの決定詞は（　）へ.
2. *hlǣfdigan*（対格）や *hlǣfdige*（主格）は，いずれも *lady* へ．その結果,
3. 文法関係を示す第一の手段としての（　　）が機能しなくなった.
4. 文法関係を示す第二の手段だった（　　）と（　　）が第一の手段へ.

(　　)に依存する言語へ

1. the lord loueth the lady
2. the lady loueth the lord

(　　)に依存する言語へ

1. God*e* ælmihteg*um* sie þonc
   → Thanks be to God Almighty
2. se wer is wisdom*es* full
   → the man is full of wisdom

(　　) 性から (　　) 性へ

1. 屈折語尾は (　　) を標示する機能も担っていたので,
2. 屈折語尾が水平化するとそれも廃れた.
3. 結果として, (　　) 性へ移行した.
4. PDE: “the moon” (= *it*), “the sun” (= *it*), “the woman” (= *she*) (#28)

語尾の水平化はなぜ起こったか (1)

1. ゲルマン語では (　　) にアクセントが来るのが原則
2. 一方，(　　) のアクセントは常に弱く，水平化・消失されやすい
3. 格や性の屈折は (　　) で標示されたので
4. ゲルマン語では，格や性が常に機能不全になる恐れがある

ゲルマン語の 6 特徴 #182

1. First Germanic Consonant Shift:
2. (　　) の強変化と弱変化
3. (　　) の強変化と弱変化
4. 時制は (　　) と (　　) のみ
5. 過去・過去分詞に (　　)
6. 第一音節にアクセント

語尾の水平化はなぜ起こったか (2)

1. しかし，語頭アクセントという (　　) 的な要因だけでは説明できない.
2. 例えばゲルマン語の一つである (　　) はいまだ豊富な格と性を保持している. #154
3. では, 英語に特有の (　　) 的な要因とは？
4. 古英語後期の (　　) 語との接触！

語尾の水平化はなぜ起こったか (3)

1. (　　) 語と英語の主な違いは，(　　) 語尾にあった
2. 語尾さえ切り落とせば，語根はほぼ同じため，意思伝達が容易だった.
3. 両言語の話者はすすんで語尾を切り落とした.

大形態変化の How and Why

1. How: 屈折語尾の (　　)
2. Why:

   (1) (　　) 語特有の第一音節アクセントの裏返しとしての語尾の弱化

   (2) (　　) 語との接触を通じての屈折語尾の切り落とし

英文法の一大変化：総合（　　）から分析（　　）へ

中英語は，屈折語尾の（　　）により，格や性を（　　）語尾によって示す総合的（　　）な言語の性質を失い，（　　）や（　　）を重視する分析的（　　）な言語へと移行した．（　　）性も（　　）性へと移行した．

まとめ

1. 英文法：総合から分析へ
2. 古ノルド語との接触の意義
3. 外面史と内面史の密接な関係を教えてくれる